



2015年 初夏号
(2015年5月10日発行)



眼科新機種導入！～レーザー治療の負担が減ります～



パターンスキャンレーザー

従来、レーザーを用いた網膜光凝固治療は、一回の照射で一個の凝固が得られる方式で行っていましたが、治療には痛みが伴う上に、糖尿病網膜症の治療の場合は片目につき総数 2000 発近い凝固が必要なので、毎回数百発ずつを 4～5 回に分けて凝固していました。このたび当院に導入したパターンスキャンレーザーは、一回の照射で 9～25 発の凝固が得られ、一発の凝固時間も従来の 10 分の 1 と短いため、痛みが非常に少なく、通院回数も少なくて治療が完了できます。患者さまへの負担が格段に軽減されます。

着任いたしました 看護部長 皆木 景子



4月に尚和会統括看護部長 兼 宝塚第一病院看護部長に着任しました皆木です。3月までは同じ尚和会の運営する宝塚リハビリテーション病院で看護部長をしておりました。改めてよろしくお願い致します。

宝塚第一病院は2年後には開設50周年を迎えます。このような歴史ある病院で働けることを幸いに思います。着任にあたり、病院理念である「地域から信用され、人に優しい医療の提供を目指して」の方針のもと、地域に貢献できるよう以下のことを実践したいと考えております。

まず、尚和会は一般急性期、回復期の病院、維持期である介護老人保健施設の4施設があります。4施設で関わった患者さまが満足して自宅に帰って頂けるように、情報交換を密に行い、シームレスな医療・看護・介護ができる風通しのよいものにしたいと思っています。また、働く職員にとって明るく楽しい、やりがいのある職場作りをしたいと考えています。それには、患者さま一人ひとりに寄り添う看護・介護や、相手を思いやれる気持ち、役に立ちたいという気持ちの源になるホスピタリティを育てていくことが大切です。そして、チーム医療を強化するため、他職種との連携を深め、患者さま中心の看護を展開し、病院組織の活性化を図りたいと考えております。皆様のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。



皆木 景子

開催予定の お知らせ

外来糖尿病教室

H27年8月8日/11月14日

H28年2月13日

まちの保健室

H27年6月27日/9月19日/12月19日

H28年3月19日



宝塚第一病院外科を紹介します

I 腹腔鏡手術

最近では傷が小さく入院期間が短い腹腔鏡手術が流行であり、当院でも毎年 30 例前後の手術を行っています。胆石症、ヘルニア、虫垂炎などの手術が主ですが、早期の胃癌や大腸癌などにも行っています。しかし、腹腔鏡手術における合併症が世間では問題になっており、腹腔鏡手術に固執するあまりに合併症を生じることもあります。術前に腹腔鏡以外の術式を選択したり術中に開腹手術へ移行したりして、合併症の軽減に努めています。

II がん検診

厚生労働省の 2015 年問題によると、『日本人の 3 人に 2 人が癌になり、2 人に 1 人が癌で亡くなる時代が来る。』とされています。これは癌が遺伝子異常の病気であり高齢化に伴い仕方のないことですが、特に五大癌（胃癌、大腸癌、肺癌、肝臓癌、乳癌、子宮癌）の早期発見・早期治療のための検診が推奨されています。当院でも子宮癌を除くこれらの癌の健診に勤めており、診断がつけば多くの癌はそのまま当院で手術や化学療法などの治療を行っています。

III 化学療法（抗癌剤治療など）

癌患者の増加に伴い、化学療法の治療数も年々増加しています。平成 26 年度の化学療法施行患者数は、胃癌 4 名、大腸癌 12 名、乳癌 15 名、その他の癌 6 名で合計 37 名でした。特に大腸癌と乳癌は化学療法が奏功し、以前の確立されていない時期に比して余命が約 10 倍になったとも言われています。癌治療では手術や放射線治療は一時的なもので主役は化学療法になったと言っても過言ではありません。化学療法の進歩に伴い、副作用の少ない薬を長く投与して、癌を縮小したり進行を遅らせたりすることが可能になりました。

IV 乳癌に対する検診および治療

癌疾患の増加の中でも女性における乳癌の発生率・死亡率が著明に増えています。このため乳癌検診として乳腺触診、マンモグラフィー、乳腺超音波が増加しています。これらの検査で乳癌を疑った場合に乳腺の超音波下針生検を行い乳癌の診断を行っています。平成 26 年は超音波下乳腺生検を 27 例に施行し、うち 2 例で乳癌が診断されました。その結果、8 例の乳癌の手術を施行し 15 名の化学療法を施行しました。乳癌は化学療法が最も奏功する疾患であり、再発転移されている方でも化学療法の続行にて良好な生活を送られています。

V 埋め込みポート設置術

食事摂取ができない患者さんへの栄養療法として、また抗癌性腫瘍剤注入用として、併せて毎年 30 例前後の症例に埋め込みポート手術を施行しています。今後も高齢化により食事摂取困難な患者さんの増加にともない、胃瘻とともに栄養療法としての中心静脈栄養用ポート設置数が増加するものと思われます。

VI 痔核・痔瘻・直腸脱

肛門科は外科外来で、外科医師が診療に当たっています。痔核の治療は座薬が奏功しますが、無効時には硬化療法（ジオン注治療）や痔核切除術を施行しています。入院期間は数日で楽に行え、すぐに社会復帰できます。痔核・痔瘻・直腸脱などでお悩みの時は外科外来を受診ください。

外科部長 安藤 達也

食中毒が発生しやすい時期になりました

これから夏にかけて、食中毒の発生がピークを迎えます。家庭でも食中毒は発生するので、予防につとめましょう。

食中毒予防の 3 原則「**つけない**・**ふやさない**・**やっつける**」

★**つけない** : 洗う！分ける！

こまめに手を洗いましょう

包丁やまな板は、食品と別々に使って洗います

加熱しないものを先に取り扱いましょう

生の肉をつかむ箸と焼けた肉をつかむ箸は別にします

保管は、密封容器に入れたり、ラップをかけましょう

★**ふやさない** : 低温で保存する（調理後はすぐに食べましょう）

購入後できるだけ早く冷蔵庫に入れましょう

冷蔵庫は 10 度以下、冷凍庫は -15 度以下です

★**やっつける** : 加熱処理

調理は十分加熱し、中心部の温度は 75 度で

1 分以上を目安にします

調理器具（包丁やまな板など）は洗った後、

熱湯をかけて殺菌しましょう

（漂白剤を使用して消毒することも効果的です）

◇ 食中毒の症状があれば、医療機関を受診しましょう

委員長コラム～Column～

“聞く”と“聴く”の違い



医療職もコミュニケーションが極めて大切であり、それに関する勉強会が最近多くなった。勉強会では“聴く”と“聞く”とは違うという説明を受ける。“聴く”は英語でアクティブリスニング（能動的な聞き方）と呼び、勉強会ではそのための様々なスキルが解説されるが、私にはどうも合点がいかない。ところが、先日参加した研究会での講師の説明がとても腑に落ちた。『相手の話の内容、相手の態度、そしてそこからにじみ出る感情などを、一本一本の花と考えましょう。そして、それらをまとめあげ綺麗な花束にして相手に返してあげましょう。それが“聴く”ということです。』なるほど！それからというもの、会話の時は、相手に素敵な“言葉の花束”を渡せるよう“聴く”ことを心掛けている。

広報委員長 川崎佳巳（眼科部長）